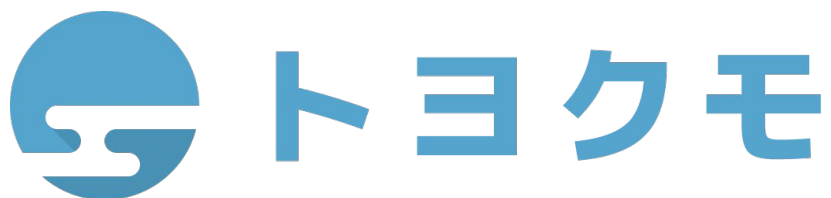


入社3年以内(2022年4月以降入社)の
会社員111名に聞いた!

【新入社員の定着率を高めるには?】

85.6%が「情報が見つからず手が止まる」現実
情報アクセスのしやすさが定着意向に影響

新入社員の「社内情報アクセス」に関する実態調査



社名 トヨクモ株式会社	
設立	2010年8月
所在地	東京都品川区上大崎3丁目1-1 JR東急目黒ビル 14階
資本金	394,830,000円
従業員数	85人 ※2025年12月時点
代表者	代表取締役社長 山本 裕次
事業内容	クラウドサービスの開発/提供、新サービスの開発と運用

はじめに

近年、人材の流動化が進む中、新入社員の早期離職は多くの企業にとって深刻な経営課題となっている。特に入社後のオンボーディング期間における業務習熟度の低さや、職場への適応困難が離職要因として指摘されている。

こうした中、新入社員が業務遂行に必要な情報へスムーズにアクセスできない状況が、単なる業務効率の問題にとどまらず、自己効力感の低下や定着意向にまで影響を及ぼしているのではないかという懸念が浮上している。

本調査は、入社3年以内の会社員を対象に、社内情報へのアクセス実態と、それが心理面・定着意向に与える影響を明らかにすることを目的として実施した。

調査の結果、85.6%が「必要な情報がどこにあるかわからず手が止まった」経験を持ち、74.8%が情報の所在不明を理由に「自分は向いていない」と感じていることが判明した。さらに86.5%が情報アクセスのしやすさが定着意向に影響すると回答している。

本レポートでは、調査結果の詳細と、企業が取り組むべき情報アクセス環境の整備について考察する。

- **調査機関**

トヨタ株式会社

- **調査名称**

新入社員の「社内情報アクセス」に関する実態調査

- **調査方法**

IDEATECHが提供するリサーチマーケティング「リサピー®」の企画によるインターネット調査

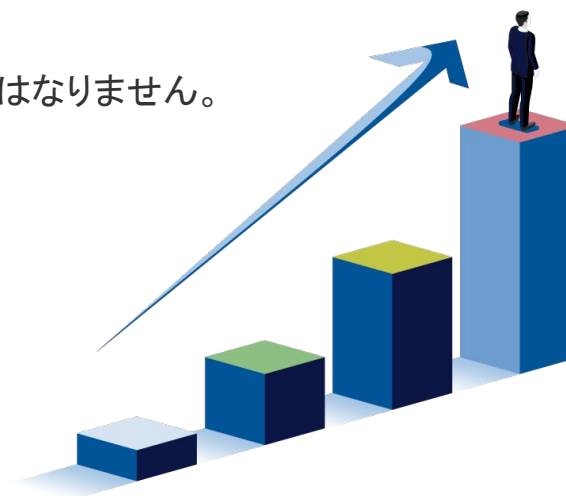
- **調査期間**

2026年3月6日～同年3月9日

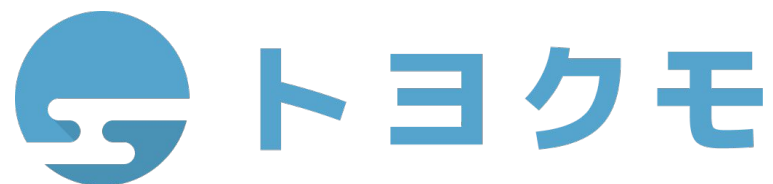
- **有効回答**

入社3年以内の会社員111名

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません。



新入社員の「社内情報アクセス」に関する実態調査
調査結果



新入社員の「社内情報アクセス」に関する実態調査

1. 約9割が情報の所在不明で業務停止を経験

入社3年以内の会社員の85.6%が、「業務に必要なマニュアルや社内ルールの所在がわからず手が止まった経験がある」と回答。

2. 約8割が先輩への質問にためらい

80.2%が上司・先輩への質問に心理的ためらいを感じ、理由の最多は「以前教わったことを再度聞くのが申し訳ない」で58.4%。

3. 情報探索に1日15分以上が4割超

1日の情報探索時間は「5分～15分未満」が45.0%で最多だが、15分以上費やす層も41.4%に上り、業務効率への影響が懸念される。

4. 約9割が定着意向への影響を実感

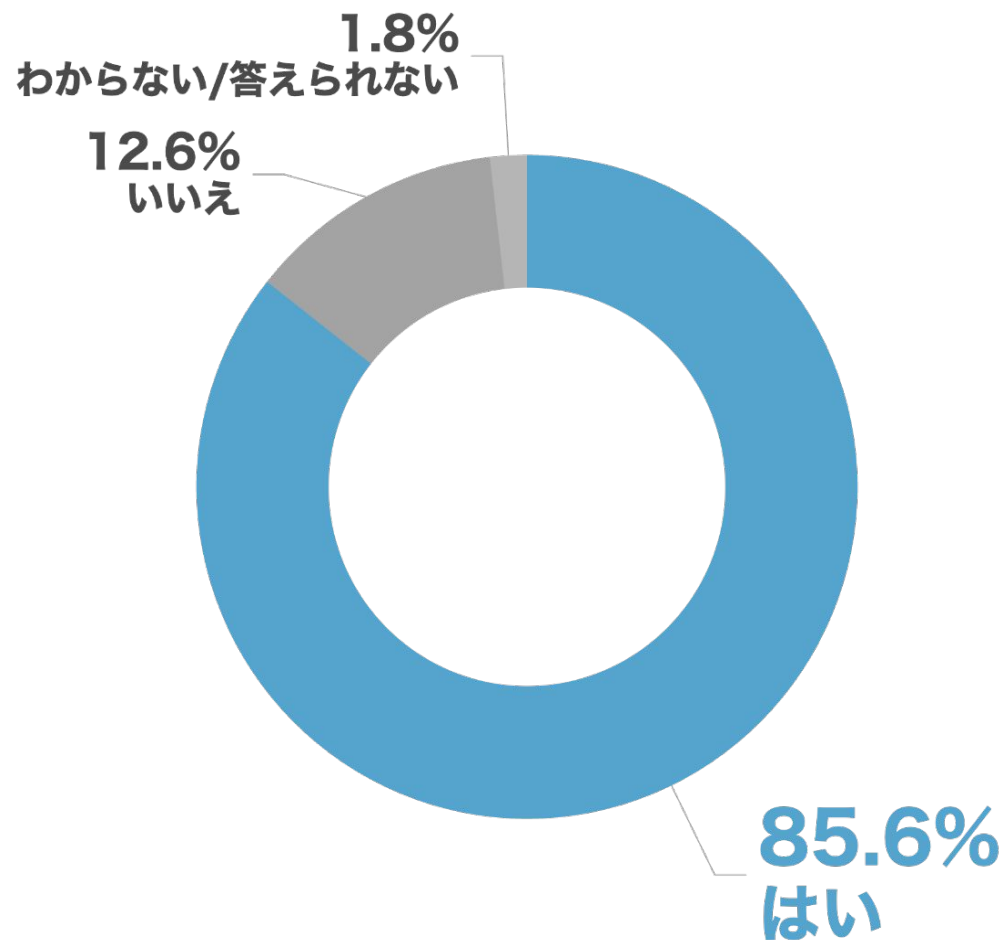
86.5%が情報アクセスのしやすさは「長く働きたい気持ち」に影響すると回答。情報環境が離職リスクに直結することが判明。

【情報迷子が新人の自信と定着意欲を奪う】

入社3年以内の会社員の約9割が「必要な情報がどこにあるかわからず手が止まった」経験を持ち、約7割半が情報の所在不明を理由に「自分は向いていない」と感じています。さらに約9割が情報アクセスのしやすさが定着意向に影響すると回答しており、情報環境の整備が新人の自己効力感と離職防止に直結することが明らかになりました。

Q1

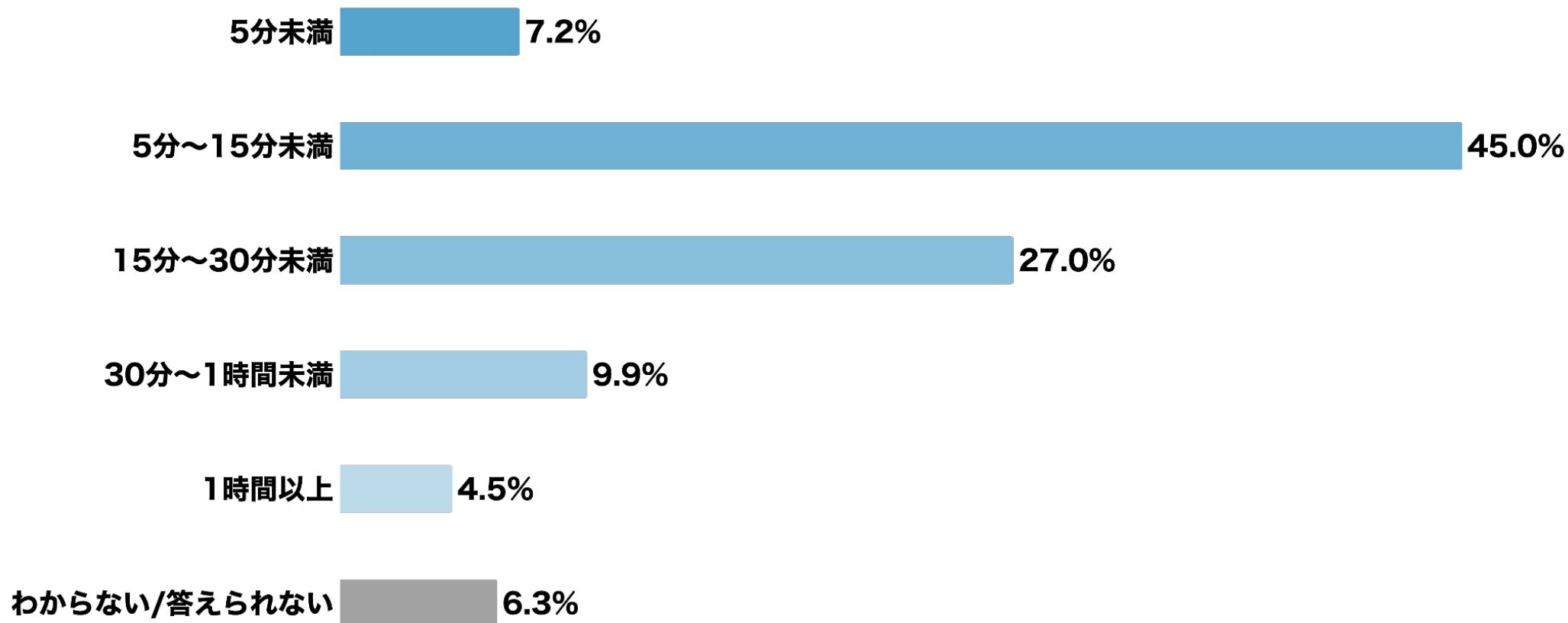
あなたは入社してから現在までに、業務に必要な情報（マニュアル・手順書・社内ルール・過去事例等）がどこにあるかわからず、手が止まった経験はありますか。



入社3年以内の会社員の約9割(85.6%)が、入社後に「業務情報の所在がわからず手が止まった」経験があることがわかります。

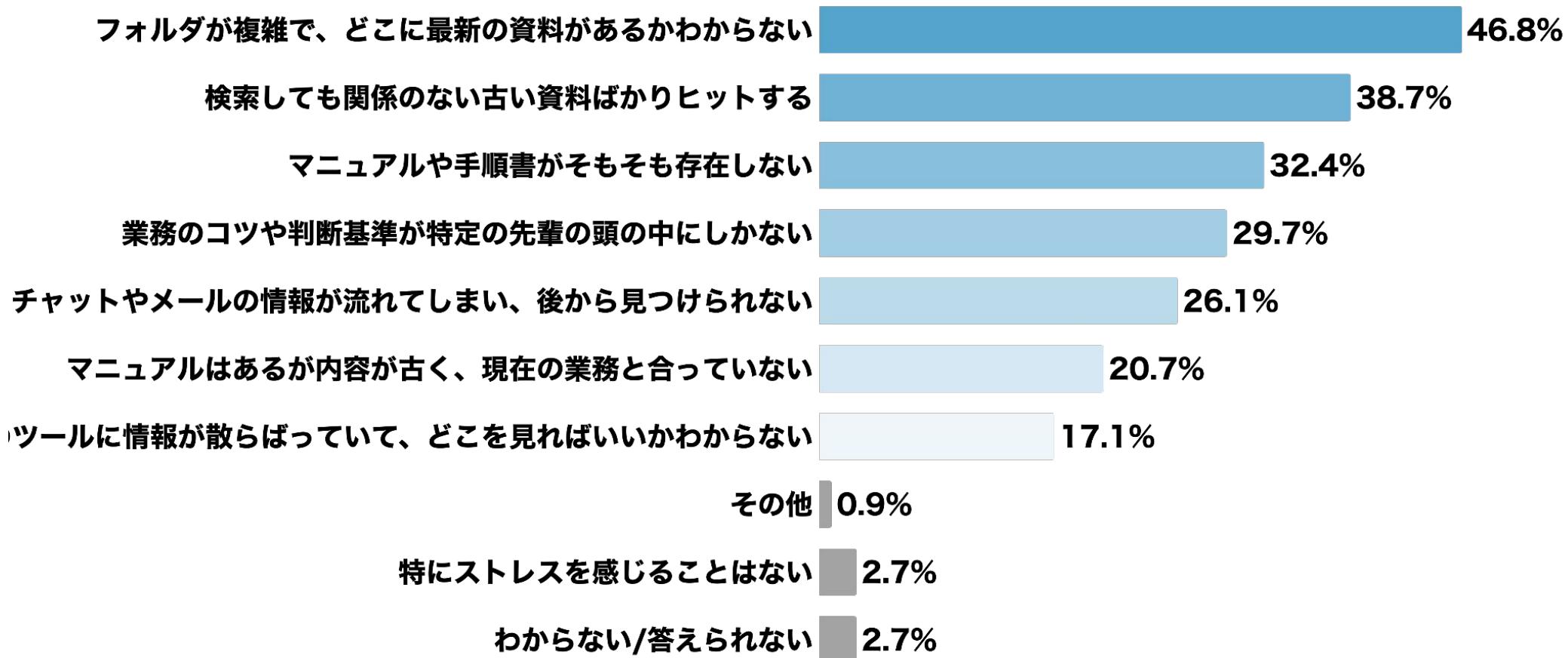
Q2

あなたは現在、1日のうち業務に必要な情報(マニュアル・手順書・過去事例・社内ルール等)を探すことに、合計でどの程度の時間を費やしていますか。



入社3年以内の会社員が1日に情報探索にかける時間は「5分～15分未満」が45.0%で最も多く、15分以上かけている人も4割を超えています。

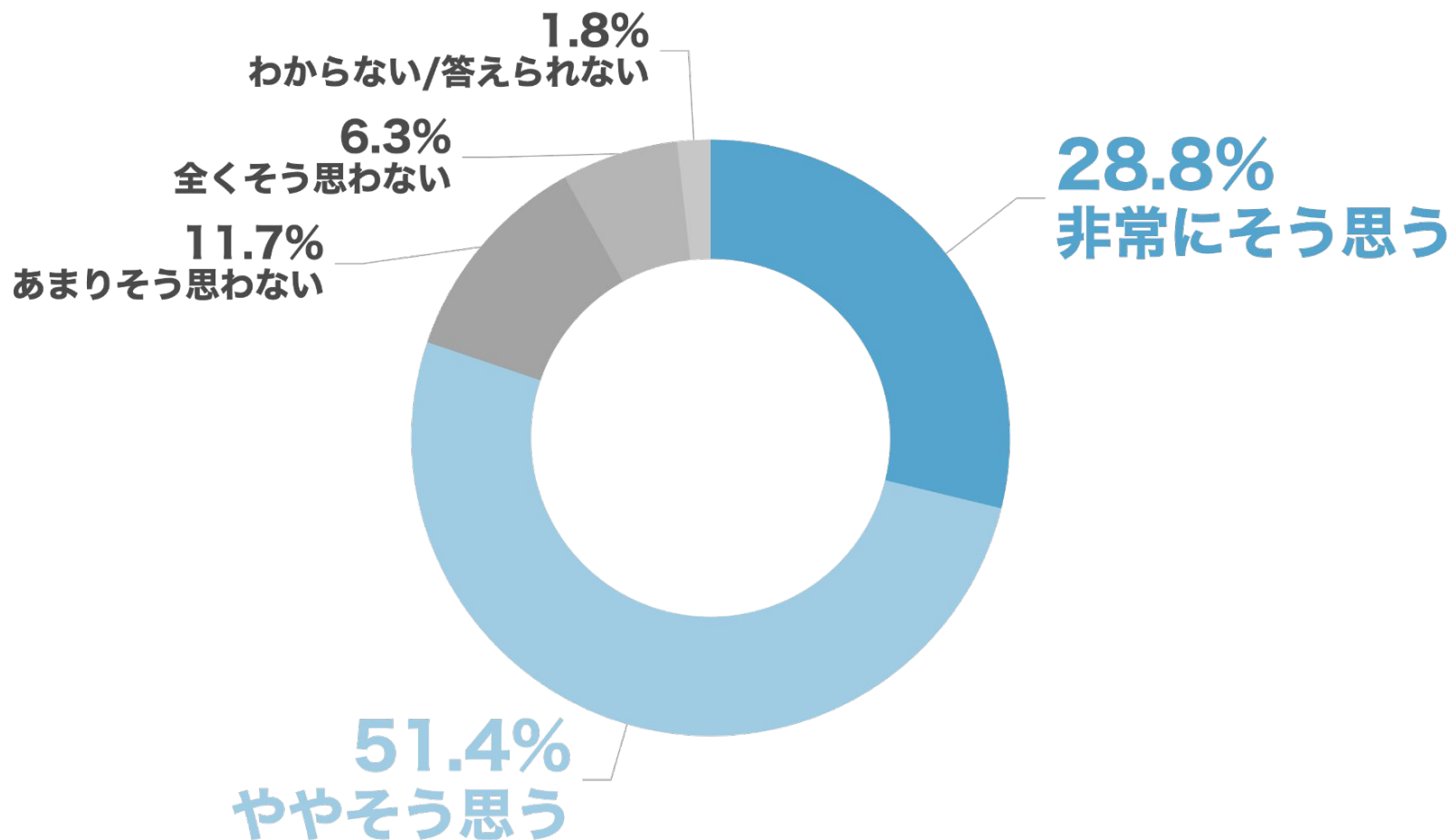
Q3 業務に必要な情報を探す際に、あなたが最もストレスを感じる状況を教えてください。(複数回答)



情報探索時に最もストレスを感じる状況として、「フォルダが複雑で最新資料の場所がわからない」が46.8%で最多となりました。

Q4

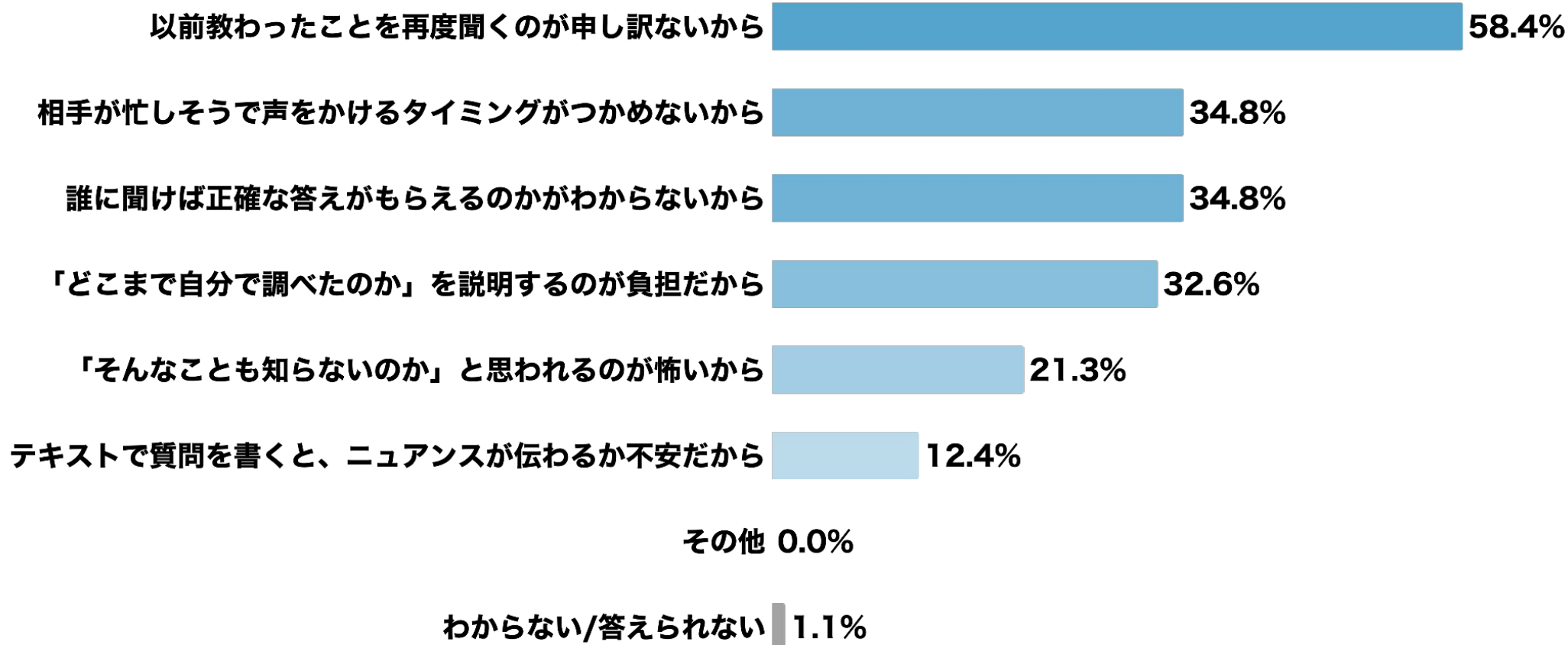
あなたは、先輩や上司に業務上の質問をすることに心理的なためらいを感じることはありますか。



入社3年以内の会社員の8割以上が、先輩や上司への業務に関する質問に「心理的なためらいを感じている」ことが明らかとなりました。

Q5

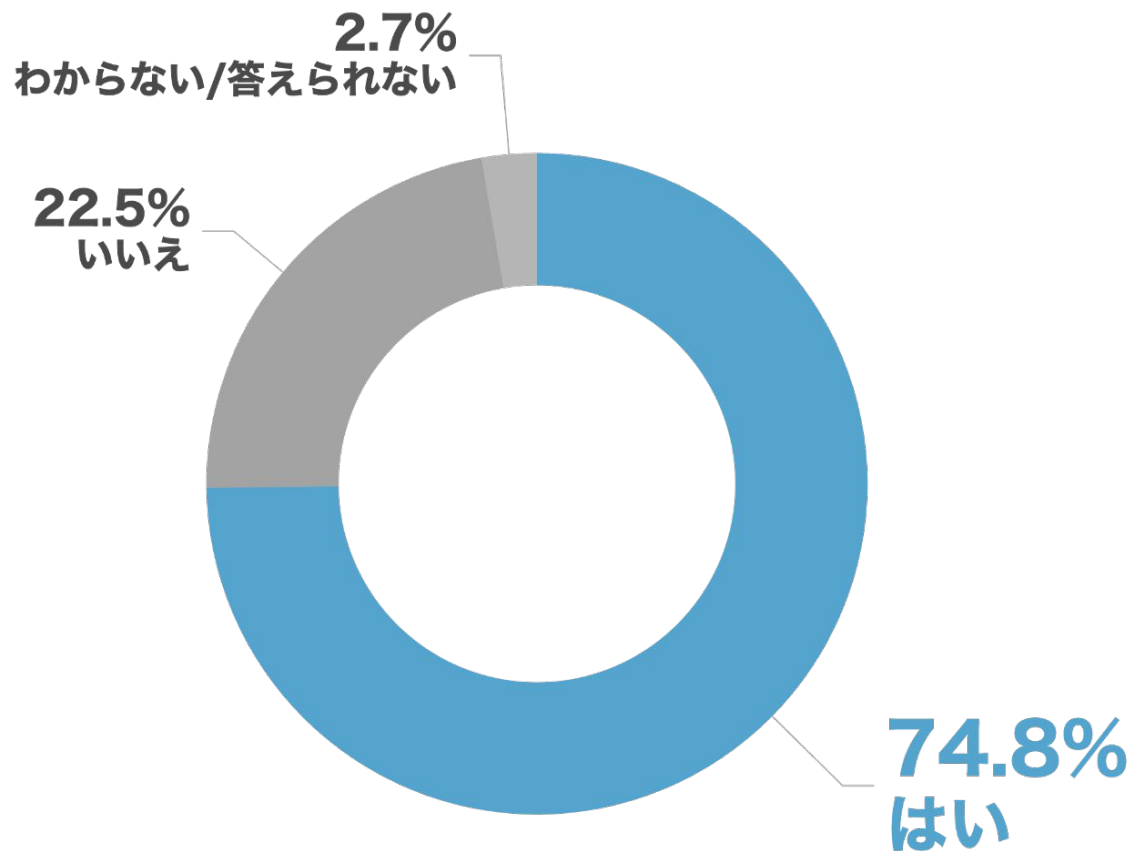
*Q4で「非常にそう思う」「ややそう思う」と回答した方への質問
ためらいを感じる理由を教えてください。(複数回答)



質問をためらう理由として最も多かったのは、
「以前教わったことを再度聞くのが申し訳ない」で、
58.4%に上りました。

Q6

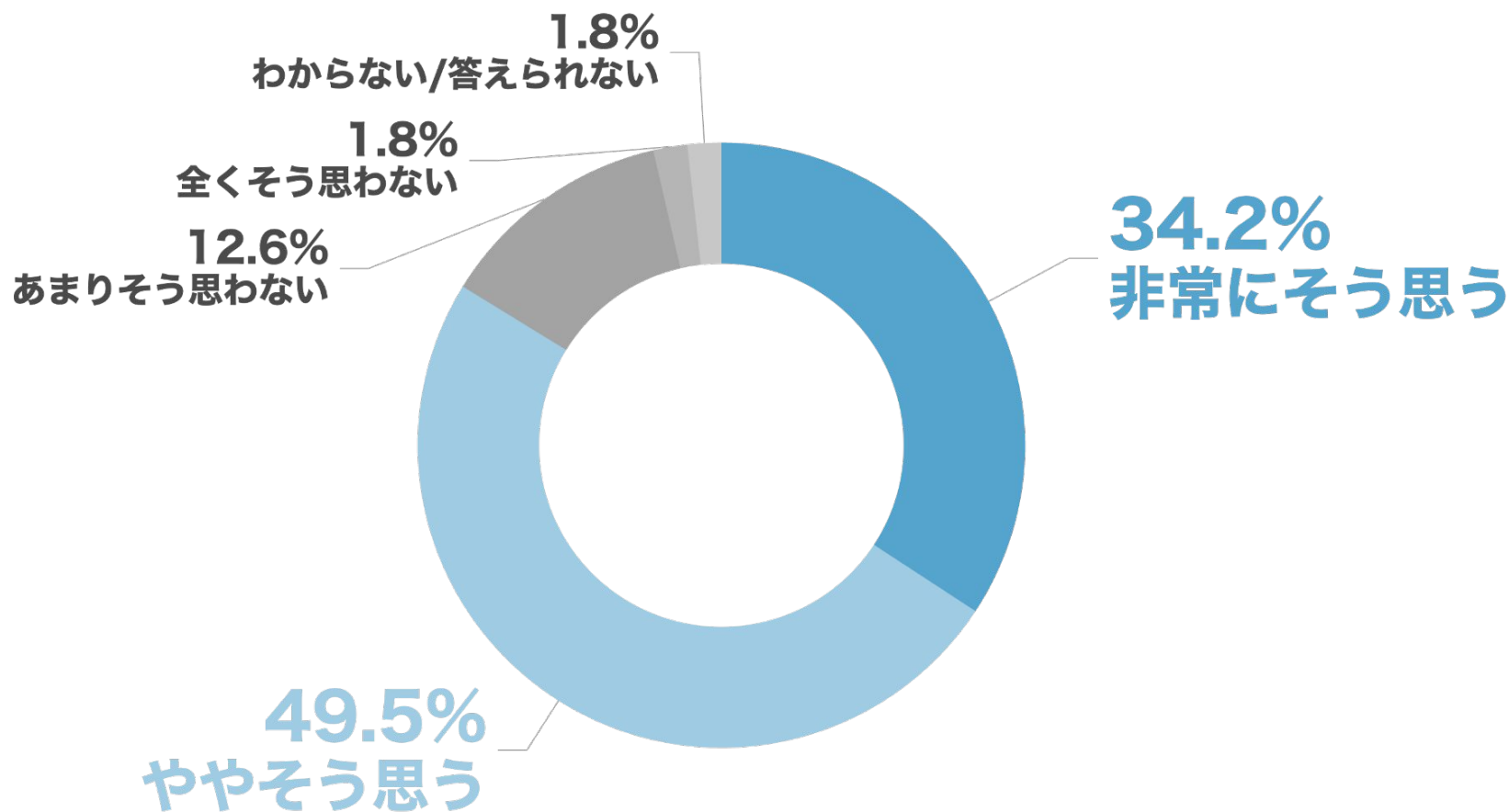
あなたは、業務に必要な情報の場所がわからないことが原因で、「自分はこの仕事に向いていないのではないか」と感じたことはありますか。



74.8%が、情報の所在がわからないことを理由に「自分はこの仕事に向いていない」と感じた経験があります。

Q7

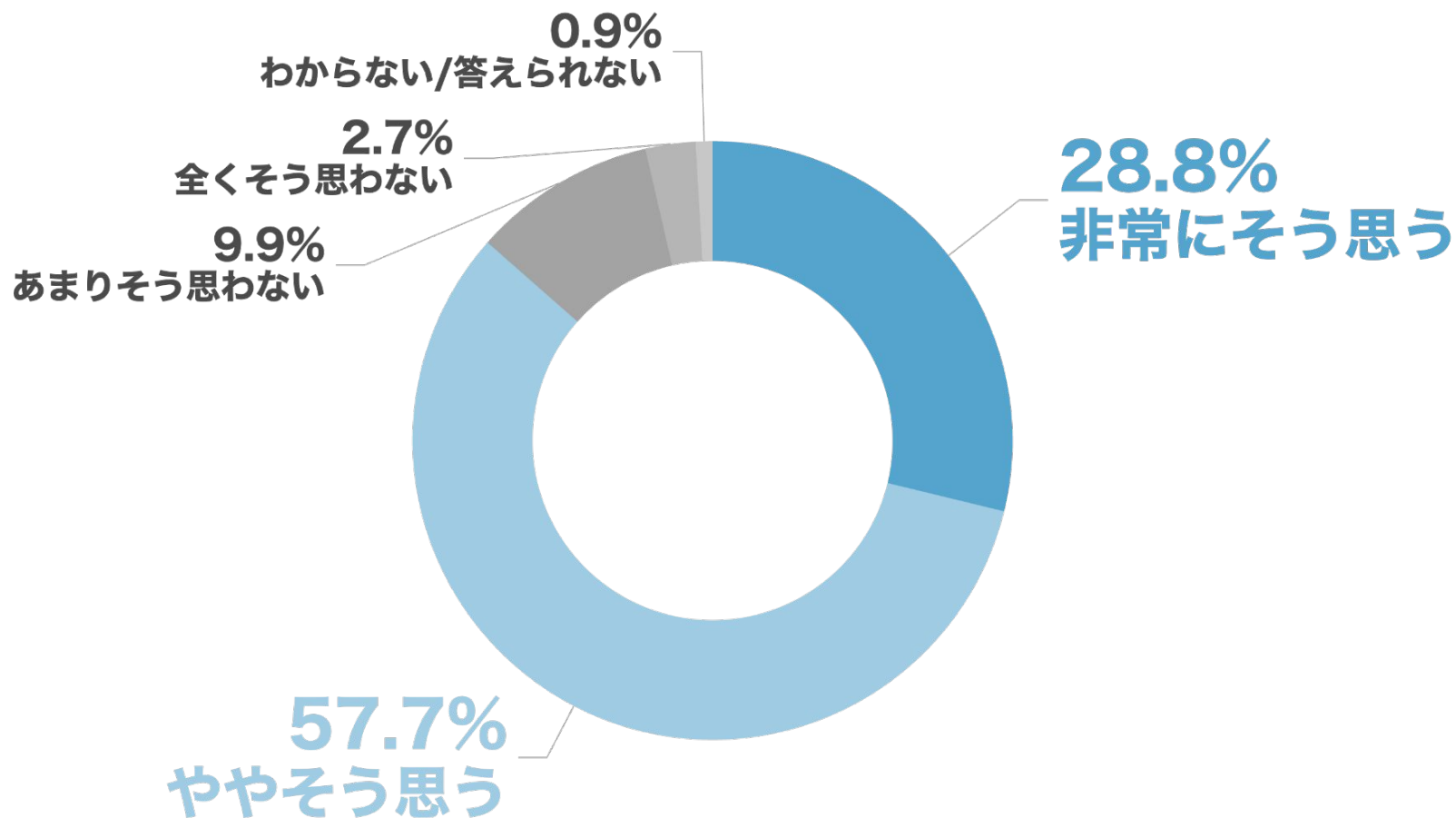
業務に必要な情報が整理されていて、いつでも自力で検索・確認できる環境があれば、日々の業務に対する安心感は高まると思いますか。



8割以上が、「情報が整理され、自力で検索できる環境があれば安心感が高まる」と感じています。

Q8

社内の情報やナレッジへのアクセスのしやすさは、あなたの「この会社で長く働きたい」という気持ちに影響すると思いますか。



「情報アクセスのしやすさは定着意向に影響する」と感じている入社3年以内の会社員は約9割を占めています。

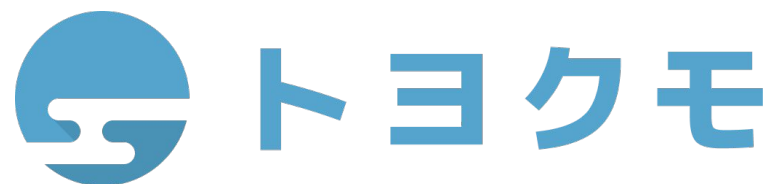
Q9

*Q8で「わからない/答えられない」以外を回答した方への質問

社内の情報やナレッジの環境について、日頃感じていることがあれば自由に教えてください。

- 人に聞かなくてもAI検索で知りたい情報がわかればいいのになって思う。
- ファイルのディレクトリがむちゃくちゃすぎて資料を探すのに時間がかかる。
- そもそもそういう環境が整っていない。
- 誰に聞いてもわからないはどうもできない。もはや自分がマニュアル作ったりしている。
- 本当に資料がない上、職員の入れ替わりが激しくそもそも知っている人が少ないし、質問にいけば怒られる。なんとか数年前の資料や去年の記憶を元に作れば、気分で変更される。きちんとマニュアル化して再現性を高めて欲しい。

トヨクモ株式会社が考える
課題と対策



課題

- 85.6%が情報の所在不明で手が止まった経験があり、1日15分以上を情報探索に費やす層が41.4%に達するなど、業務時間の損失が深刻化している。
- 80.2%が先輩・上司への質問にためらいを感じ、58.4%が「再度聞くのが申し訳ない」と回答。一度聞いた情報を自力で再確認できる仕組みが欠如している。
- 46.8%が「フォルダが複雑で最新資料の場所がわからない」、38.7%が「古い資料ばかりヒットする」と回答。情報の整理・更新体制に課題がある。
- 74.8%が情報の所在不明を理由に「自分は向いていない」と感じ、86.5%が定着意向への影響を実感。情報環境の未整備が新人の自己効力感と離職に直結している。

対策

ナレッジの一元管理とAI検索による「自己解決環境」の構築

新入社員の情報アクセス課題を解決するため、3つの施策を提案します。第一に、マニュアル・手順書・過去事例を一元管理できるナレッジベースを構築し、フォルダ構造の複雑さを解消すること。第二に、AI検索機能を導入し、キーワード入力で最新かつ適切な情報に即座にアクセスできる環境を整備すること。第三に、定期的な情報の棚卸しと更新ルールを策定し、古い資料の混在を防ぐこと。これにより「再質問へのためらい」を解消し、新入社員が自力で情報を確認できる体制を実現することで、自己効力感の向上と定着率改善が期待できます。

NotePMで“ 属人化した情報 ”を“ 会社のナレッジ ”に

＼ 誰でもカンタンに使える /

マニュアル作成・
ナレッジ管理なら



NotePMは、ナレッジやノウハウを一元管理できるナレッジマネジメントツールです。
マニュアル作成からノウハウの共有、社内ポータル / 社内wiki / 社内FAQの運用、取引先との情報連携まで、
さまざまなシーンで活躍します。

カンタン操作と効率的な運用を可能にする機能性で「ほしい情報が見つからない」「ノウハウが属人化している」といったナレッジマネジメントの課題を解決するのが、NotePMです。

製品HP : <https://notepm.jp/>

導入事例 : <https://notepm.jp/case>

本調査利用方法

<利用条件>

1. 情報の出典元として「トヨクモ株式会社」の名前を明記してください。
2. ウェブサイトで使用する場合は、出典元として、下記リンクを設置してください。

URL: <https://notepm.jp/>

お問い合わせについては、下記にご連絡ください。

トヨクモ株式会社 マーケティング本部

メールアドレス: marketing@toyokumo.co.jp

電話番号: 050-3816-6666

シンプルだから、みんな使える。

カンターントヨクモ

